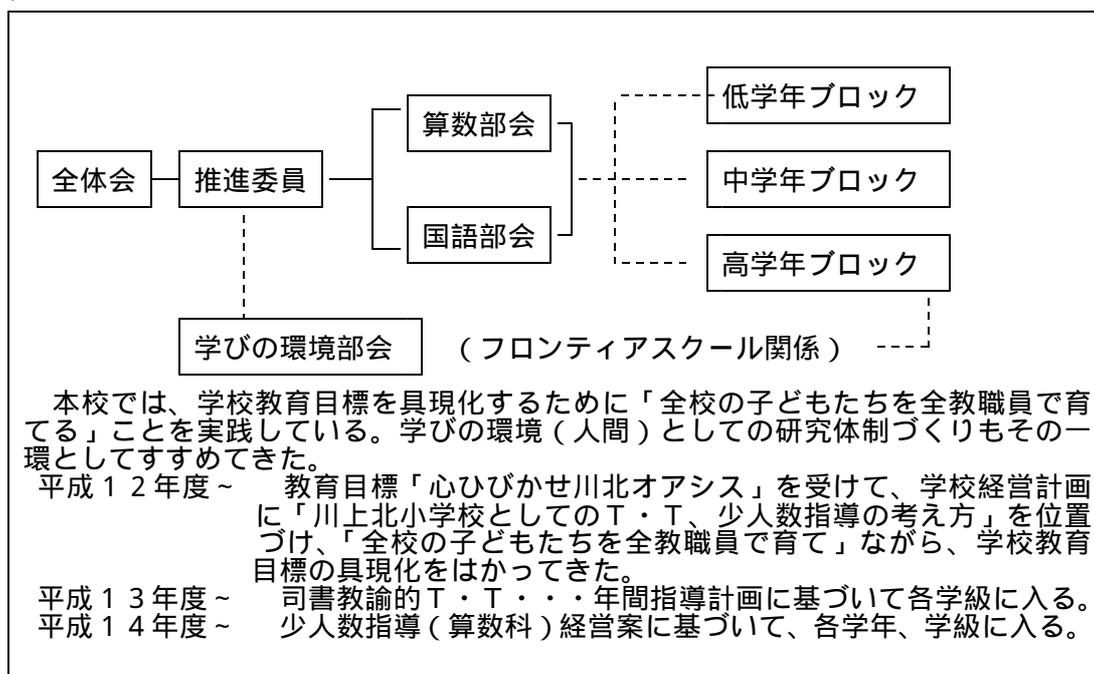


(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ T・Tの指導法と少人数の指導法「習熟度別学習」の研究を推進し、児童一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな指導の在り方を研究する。 ・ 学びの環境としての研究体制を組織する。 ・ 少人数指導・・・課題別グループ、習熟度別グループ、学級+グループなど ・ 時間割編成の工夫、学習室、特別教室の活用 ・ 教科担任制の指導体制及び指導法の工夫改善 ・ 指導計画（教材開発）・評価計画の作成 ・ 中間報告書の作成
--------	--

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ T・Tの指導法と少人数指導の「習熟度別学習指導の工夫」を深めるとともに、指導内容の定着に関するアンケート調査を行う。 ・ 指導内容に対する評価計画の見直しを図る。 ・ 個に応じた指導のための教材開発及び児童の意欲を喚起する指導法の工夫を推進する。 ・ 2年間の成果と課題のまとめ、実施報告書の作成
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

児童一人ひとりの実態に応じたきめ細やかな指導のあり方を目指した授業実践を通して、明らかになってきたものがある。

ひとつは子どもたちの姿に見られる変化であり、もう一つは教材を深く研究し、身に付けさせたい基礎・基本を明確にし、計画的に指導することの重要性である。

—確かな学力の向上が見える、と思えた子どもの姿をとらえて—

(1) 国語科で

- ・読み聞かせやブックトークの中で、読書の楽しさが分かった子が、自分から本を借りて、休み時間でも読みふけている。また、すすんで本を読もうとする姿がある。読書郵便をたくさん書き、楽しんでやりとりする姿も見られた。
- ・日記、作文の漢字が以前より増えた。日本語の取り出し指導の場面では、読み書きできるひらがなが増えた。教科書の音読がすらすらできるようになった。
- ・作文、感想文、調べたことをまとめるなど、文を書く作業を嫌がらなくなった。
- ・自分がどんなまとめ方をしたいのか、どんな発表をしたいのか、考えることができるようになった。
- ・相手意識をもって表現を工夫して楽しむ姿が見られた。
1年 グリーンワープへ(音楽劇) 2年 1年へ(ペープサート)
- ・あのねノート(日記)を続けて書き、少しずつ長く書けるようになった。

(2) 算数科で

- ・たし算、ひき算の意味が分かり、生活の中でその場面を見つけると「おはなしづくり」を自然に始めている。また、繰り上がり・繰り下がりの計算をする中で、数を5や10のまとまりとしてとらえることができるようになった。
- ・たし算で計算の決まり(たし算のひみつ)を見つけたら、ひき算では自分たちから見つけて学習していた。
- ・たし算で、位取りを生かして計算することを理解した子が「どの位も一桁のたし算で計算できちゃうよ。」と大きな数の計算に挑戦している。
- ・かけ算かるた(カード)、かけ算マスター、ブラックボックス、プリントに積極的に取り組む姿がみられた。また、かけ算の決まりを使って九九を積極的に覚えようとしている。
- ・具体物を使って考え分かるようになると、次の意欲につながった。
- ・「円と球」の学習を終え、国語のパンフレット作りをしているときに、レイアウトとしてコンパスで円を描いていたり、図画工作で使ったりしていた。
- ・算数の時間がすきになったり、得意と感じている児童が増えた。
- ・すごろくなど子どもの遊びの中に数量を扱ったものがでてきた。
- ・計算プリント、ドリルなどの正答率が高まってきて、自信をもつ子が増えてきた。

(3) その他

- ・学習に対して忍耐強く取り組むようになってきた。
- ・学習へ取り組む意識が増し、字を丁寧に書くようになった。課題について、考えた発言や内容になってきた。
- ・自分が質問したいことを、知っている言葉や、動作を使いながら、聞こうと努力するようになってきた。

2. 今後の課題

教材研究を深くし、基礎・基本として何が大切かを見極め、そして、実態を考慮して適切な手だてを探っていきたい。

子どもの変容を見ていくとき、どの子にも共通して見られたのは、「分かった」「納得した」「できた」「認められた」「自分の力でできた」などの経験をすることで、自信をもち自分からかわろうとするようになってきたことである。自分からかわり始めると、子どもに定着するものも確かなものになることが見えてきた。

少人数指導の取り入れ方も、学習計画の組み立て方も、そこにいる子どもたちの実態をはずしては生きてこないことを強く感じている。

分かったうれしさを伝えてくる子どもたちに、さらに応えていきたい指導者の思いを実現していくための、現状の人員配置の中での体制の工夫、改善

少人数制を取り入れることで担当教諭と学年学級との打ち合わせの時間はますます必要になってくる。短時間でも、その時々打ち合わせをもつよう努めているが、工夫してその時間の確保をしていくことも課題の一つである。

学力等把握のための学校としての取組

- ・指導と評価の一体化を図り、評価して見取ったことを生かして学習を進める。
- ・個の変容を見取るために指導者が見取った姿を書き出す。
 - －確かな学力の向上が見える、と思えた子どもの姿をとらえて－ H15・8
 - －確かな学力の向上が見える、と思えた子どもの姿をとらえて－ H15・11
- ・横浜市標準学力診断検査

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・「横浜地区学力向上推進連絡協議会」、「神奈川県フロンティアティーチャー研修会」に資料提案
- ・よこはまカリキュラムを推進していく横浜市教育課題研究委員会に参加している委員を通して、資料提供
- ・「学力向上フロンティアスクール発表会・少人数指導学習会」資料提案
- ・平成15年度のまとめのリーフレットを横浜市内の各校に配布
- ・HPに授業の取組の様子の写真を掲載

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無